|  |
| --- |
| **〇　終了いたしました　●〇** **（公財） げんでん ふれあい茨城財団支援事業【ポストコロナの思春期のいま－変化をどうみて　どう支えるか－】**1. 発題　　保護者、教員、準当事者、医療従事者の立場から

大野一樹　氏(酒門診療所　児童精神科医師) 平野弥生　氏（水戸子どもの劇場代表）　石井香理乃　氏（公立中学校養護教諭）　　　　　　　　　　　保坂英里　氏・鎌形葉月　氏（思春期保健協会ヤングボランティア　学生）　　コーディネーター　熊野正浩　氏　（酒門診療所　臨床心理士）　　　1. グループデスカッションとまとめ
 |
| ■日時：2023年11月26日(日)　 13:30～16:30　　■場所：水戸市医師会館　■参加者数　57名■参加者の感想から・それぞれの立場から、ポストコロナの子どもたちのリアルが報告され、現状を理解できた。・発題を受けて、異職種構成での小グループによるディスカッションは、様々な視点、角度からの協議となり学びが多かった。さらに学びたい。・ポストコロナの子どもの具体的な対応が分かった。・コロナ禍の対応のメリット、デメリットが分かった。・異職種の方の横のつながりを大切にしたい。・大人にこそやりとりが大切だと感じた。この対面での協議の良さを子どもにも伝えたい。など帰りには、「こんな関りをしてみよう、何かを調べて見よう、また話しをしたな…」という気持ちにしたいという企画の意図は実現できたと思われる。 |  |